

ゼロからつくる充実感

小川地区在住。合併し、「みのゝれが身近に感じるようになった」と語る石井真紀さん。風のホールの体験型アトラクション「夢ちゅーの国」の滝つぼと一緒にパチリ。



四季フェスみの〜れ実行委員会

石井 真紀 さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.10

春の訪れと共に桜の季節がやってくる。今回は、四月五日（土）に開催される『四季の里さくらフェスティバル』を企画する委員であり、みのゝれ風のホールに創るアドベンチャー&ファンタジー体験型アトラクション『夢ちゅーの国』で、吊り橋&ターザンロープを担当する委員の一人、石井真紀さんに取材する。

本気で手作りアトラクション

石井さんは、茨城県の青少年協会が運営している「茨城ユースプロジェクト」にボランティアとして参加している。週一回の打合せには、ひたちなか市にある職場からの帰りに立ち寄り、自分たちで計画してイベントを実施しており、「普段では出来ないことを子どもたちに体験させてあげたい」と語る。

その茨城ユースプロジェクトのメンバーであり、前回の四季フェスみのゝれ実行委員でもある知人に声をかけられ、「みのゝれはどういうところなのか、どんなことをしているのか分からずに」飛び

込んだ。初めて会った人たちと白紙の段階から企画し、「想像していたものが実現されていく驚きと感激があります」と石井さん。

『四季の里さくらフェスティバル』は石井さんにとって未知の世界。『成功』するのが今から楽しみと語る。吊り橋&ターザンロープの担当になり、自分の生活の中でも色々な物が目につくようになった。例えば、橋を造っている工事現場を目を凝らして見てみたり、買い物をしていても「これは使えるか？」などに留めるようになった。「いつも頭のどこかに吊り橋やターザンロープが入っています」と嬉しそうに話す石井さん。

「みのゝれは日夜、

小さな子どもから年配の方まで集い、いつも活気があふれている。年配の方も活躍し、年齢を感じさせない。地域の人たちが多く参加して運営されているのが素敵だと思った。「関わることでみのゝれの良さが分かるので、ぜひ多くの人に参加してほしいと思います。そしてまずは、私たち実行委員全員でつくった『四季の里さくらフェスティバル』に足を運んでいただき、この情熱を感じ取っていただければ嬉しいです」

（藤田佐知子）